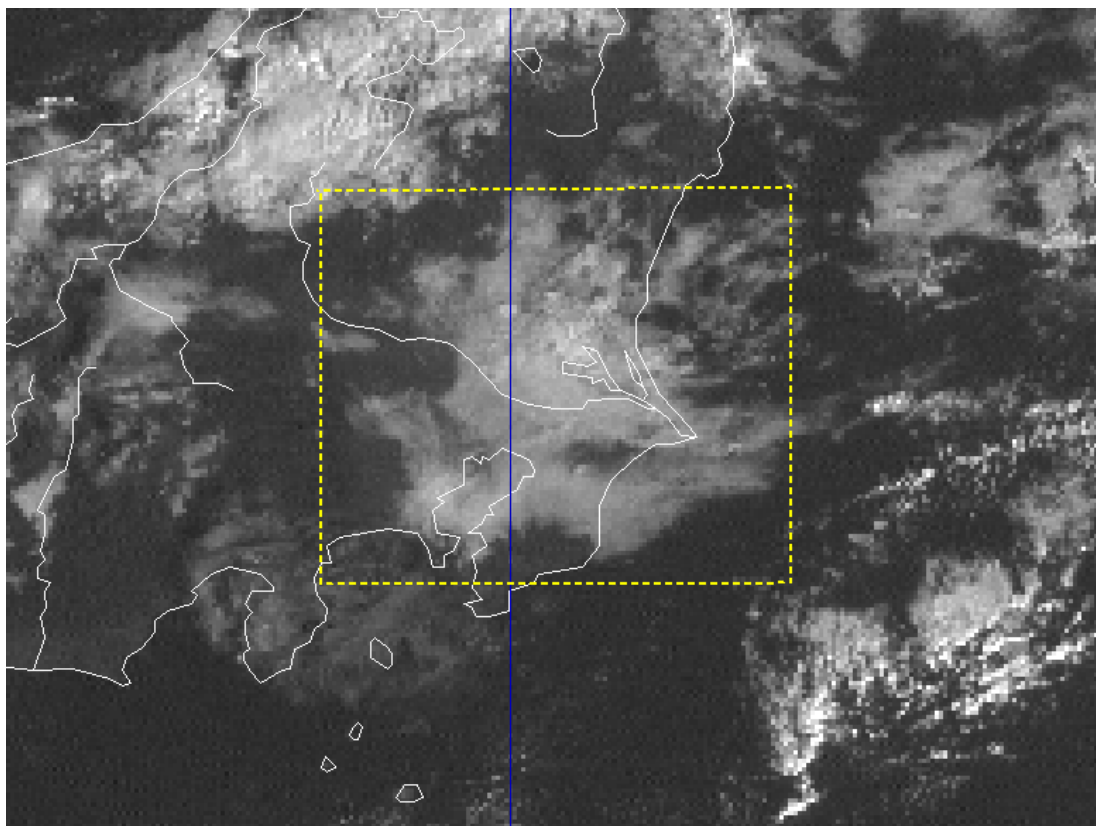


## 今月の気象衛星画像（2004年11月）



2004年11月2日09時の可視画像

### 関東平野に発生した大規模な霧

11月2日、関東地方では広範囲にわたって濃い霧が発生した。このため、千葉市や熊谷市などでは視程（見通し）が100m以下、東京大手町でも500mとなるなど、視界不良のため、電車運行見合せ、高速道路の通行止めなどが発生し、首都圏の交通機関に大きな影響を与えた。

霧は雲頂高度が低いいため地表との輝度温度差が小さく、赤外面像では判別が困難な場合が多い。可視画像では灰～白色の雲頂表面が一様で滑らかな領域として判別することができる。また、動きは一般に遅く形状の変化も穏やかである。

写真は11月2日午前9時の可視画像である。霧域は茨城県付近の一部を除き、関東平野から房総半島の東海上にかけてみられる（破線の部分）。

今回のこの大規模な霧の発生要因としては、前日低気圧の通過に伴う降水によって空気が湿り、天気も急速に回復したため、2日の明け方、雲がなく風も弱い状況下において放射冷却による地表付近の気温降下が起こり、空気中の水蒸気が凝結して霧が発生したと考えられる。この広範囲に発生した濃霧も日中にかけての気温の上昇とともに解消した。

このように、降水を伴う低気圧通過後の晴天（雲が少なく風が弱い）の明け方、放射冷却により霧が発生することが多く、時には広範囲にわたることがある。

（気象衛星センター）